プレスリリース

ギグメンタ 2015

日本画のハードコア

中村ケンゴ《自分以外》パネルに和紙、岩絵具、顔料、アクリル、樹脂膠、1455×1455mm、2014 年

今春、さまざまな作品のテーマと手法、世代の作家 6 名によって、多様と言われる現在の日本画のハードコア（核心）を宣言する展覧会「日本画のハードコア」展を開催いたします。ぜひ本展の周知にご協力いただけますようお願い申し上げます。

出品：岩田壮平、蝦原由紀（加藤由紀）、大浦雅臣、田中武、中村ケンゴ、間島秀徳
企画：小金沢智
会期：2015 年 4 月 7 日（火）～12 日（日） 11 時～20 時（最終日は 18 時まで）
会場：The Artcomplex Center of Tokyo 2 階 ACT5
〒160-0015　東京都新宿区大京町 12-9
主催：美学校・ギグメンタ実行委員会
協力：The Artcomplex Center of Tokyo

■企画概要

日本画のハードコア。1966 年、美術評論家の針生一郎が「これが日本画だ！」展を企てたように、私もこれが日本画のハードコア＝核心だと言い切ろう。作られた伝統を隠れ蓑に、素材と様式に盲信した絵画のことではない。そもそも、国名を冠したこの奇妙な絵画の一ジャンルは、日本が開国して西洋絵画の技法が導入された明治時代、西洋画に対して名づけられた。廃藩置県を行った明治政府が地方統治を一元化したように、日本画はそれまでの国内の諸流派をいわば統合するかのようにして、同時に西洋絵画の技法も取り入れることで、西洋の文脈に乗っ取った絵画を作り上げようとしたのである（たとえば今も日本の現代美術がそうした手法をとるように）。江戸幕府が倒れるまで日本最大の絵画工房を築き上げた狩野派に学んだ狩野芳崖が、フェノロサとの研究から西洋絵画の空間表現や色彩を作品に取り入れたことはよく知られている。その後の岡倉天心や横山大観らが試みた明確な輪郭線を持たない描法・朦朧体は、フランスの外光派から着想を得て生まれたものだった。「これが日本画だ！」展出品作家であり、戦後渡米した中村正義が強い影響を受け自作に応用したのは当時シーンを席巻していたポップアートである。これらのことは、日本画が伝統的な素材と様式の不変の継承ではないことを意味している。彼らの作品のテーマ自体（宗教画、歴史画、肖像画、風景画など）は必ずしも目新しいものではなかったが、そうして日本画は、日本だけではなく世界各地の美術シーンからも貪欲に学ぶことで同時代に対して新たな成果を挙げていった。したがって日本画のハードコアは、不変の伝統にではなく、美術史上の営みを咀嚼しつつ同時代に向けられたラディカルな創造性にこそ発見されなければならない。

明治維新から約 150 年、アジア・太平洋戦争敗戦から 70 年が経つ今日、現在の私たちが立つのもその延長線上である。すなわち日本画のハードコアの担い手は、ドメスティックでありながらも自閉的ではなく、伝統主義者というよりはアヴァンギャルドであり、近代に作られた日本画の制度とその歴史的過程でリミックスされ続けている主題と技法に対する批評的まなざしを持つ。美学校主催「ギグメンタ 2015」の一環で開催する本展が狙うのは、制作テーマも世代も異なるものの大学で日本画を専攻した 6 名の作家によって、日本画の超克や現代美術化を狙うのではなく、そして多様性の名の下に日本画の定義不可能性を語るのではなく、これこそが日本画のハードコアだと断言してみせることで、来るべき日本画を確信犯的に誘発することにほかならない。（小金沢智／本展企画者、日本近現代美術史）

企画者プロフィール：小金沢智　KOGANEZAWA Satoshi

1982 年、群馬県生まれ。2008 年、明治学院大学大学院文学研究科芸術学専攻博士前期課程修了。日本近現代美術史を専門とし、展覧会や執筆を通して、美術史と現在の表現との接点と接続の可能性を探っている。2014 年 2 月より、日本画をさまざまな側面から検討する部活動「日本画（仮）部」を開始。2010 年 7 月より 2015 年 3 月まで世田谷美術館非常勤学芸員、2012 年 5 月より武蔵野美術大学造形学部通信過程非常勤講師。世田谷美術館での主な担当業務に、世田谷美術館分館 宮本三郎記念美術館での収蔵品展、教育普及事業主担当、図録『宮本三郎の仕事 その眼差しと時代』（世田谷美術館、2014 年 3 月）の編集・執筆、世田谷美術館本館でのミュージアム・コレクション「気になる、こんどの収蔵品展 作品がつれてきた物語」（2013）主担当、企画展「ある造形家の足跡 佐藤忠良展」（2010）副担当、企画展「生誕 100 年 松本竣介展」（2012）副担当など。また、『諏訪敦 絵画作品集 どうせなにもみえない』（求龍堂、2011 年 7 月）の解説執筆、『月刊ギャラリー』「評論の眼」（2010 年 11 月号〜2014 年 12 月）連載執筆など、現代作家についての文章をカタログや雑誌に多数執筆。

■ 出品作家（全６名、五十音順、掲載作品は出品予定作品／新作とは異なります）

（1）岩田壮平　IWATA Sohey

日本画家。1978 年、愛知県生まれ。1981 年、華道池坊入門（'95 まで）。2000　年、金沢美術工芸大学絵画専攻日本画卒業。2002 年、金沢美術工芸大学大学院美術工芸研究科絵画専攻日本画修了。近年の展覧会に、個展「origin」（日本橋髙島屋美術画廊・他各地巡回、2014 年）、グループ展「双の会」（春風洞画廊、2014 年）、公募展「第１回　改組　新　日展」（国立新美術館・他巡回、2014 年）など多数。現在、日展会友、武蔵野美術大学非常勤講師。

岩田壮平《雪月花時最憶君～花泥棒》2000×10000mm、2014 年

（2）蝦原由紀（加藤由紀）　EBIHARA Yuki（KATO Yuki）

画家。1987 年、愛知県生まれ。2010 年、筑波大学芸術専門学群卒業。2012 年、筑波大学大学院人間総合科学研究科博士前期課程芸術専攻芸術学領域群日本画領域修了。近年の展覧会に、公募展「損保ジャパン美術賞展　FACE2014」（損保ジャパン東郷青児美術館、2014 年）、グループ展「聖夜の女子会」村越画廊、2014 年）、公募展「シェル美術賞展 2014」（国立新美術館、2014 年）など多数。http://katoyuki.obihimo.com/

蝦原由紀（加藤由紀）《ヤヌス》鳥の子紙に胡粉・箔・岩絵具・ダーマトグラフ、1620×1620mm、2014 年

（3）大浦雅臣　OURA Masaomi

日本画家。1977 年、東京都生まれ。2003 年、武蔵野美術大学造形学部日本画学科卒業。2005 年、武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻日本画コース修了。近年の展覧会に、個展　「もしもし日本画」（もみの木画廊、2012 年）、個展「楽園」（成城さくらさくギャラリー、2014 年）、グループ展「ニホンノココロ企画　恋愛絵画展」（ギャラリー・ショアウッド、2013 年）など多数。
http://oura.jimdo.com/

大浦雅臣《創世機》三彩紙に岩絵具・墨・箔・泥・樹脂膠、2250×3000mm、2010 年

（4）田中武　TANAKA Takeshi

日本画家。1982 年、福岡県生まれ。2010 年、九州産業大学博士後期課程芸術研究科造形表現専攻（日本画）修了。近年の展覧会に、「夜　咄」（imura art gallery Kyoto、2014 年）、グループ展「寺田コレクション ～自然と生命への讃歌～」（茨城天心記念五浦美術館、2014 年）、グループ展「タカシマヤ幻想博物館展」（日本橋髙島屋・他各地巡回、2014 年）など多数。現在、九州産業大学芸術学部日本画コース非常勤講師。
http://takeshi-tanaka.net/

田中武《夜妄（十六恥漢図シリース）》土佐麻紙に水干絵具・墨・アクリル絵具、1940×1300mm、2013 年、高橋コレクション蔵

（5）中村ケンゴ　NAKAMUTA Kengo

美術家。1969 年、大阪府生まれ。1993 年、多摩美術大学大学絵画科日本画専攻卒業。1995 年、多摩美術大学大学院美術研究科修士課程修了。近年の展覧会に、個展「心文一致」（Showcase MEGUMI OGITA GALLERY、2014 年）、個展「モダン・ジャパニーズ・ジャパニーズ＝スタイル・ペインティング 1994-2014」（掛川市二の丸美術館、2015 年）、グループ展「手塚治虫×石ノ森章太郎　マンガのちから」（東京都現代美術館、2013 年）など多数。
http://www.nakamurakengo.com/

中村ケンゴ《心文一致》（2013 年）、伊勢丹新宿店グローバルクローゼットでのインスタレーション

（6）間島秀徳　MAJIMA Hidenori

日本画家。1960 年、茨城県生まれ。1984 年、東京芸術大学美術学部絵画科日本画専攻卒業。1986 年、東京芸術大学大学院美術研究科修士課程修了。2000 年〜2001 年、文化庁在外研修員としてフィラデルフィア（ペンシルバニア大学）、ニューヨークに滞在。近年の展覧会に、個展「Kinesis(seamount)間島秀徳展」（Steps Gallery、2014 年）、グループ展「作家とアトリエ展―作品を生み出す身体、創造の場―」（茨城県近代美術館、2014 年）など多数。

「間島秀徳展 recent works」2013 年、キャラリーK でのインスタレーション　撮影：飯村昭彦

■展覧会概要

展覧会名：ギグメンタ 2015「日本画のハードコア」展
出品：岩田壮平、蝦原由紀（加藤由紀）、大浦雅臣、田中武、中村ケンゴ、間島秀徳
企画：小金沢智
会期：2015 年 4 月 7 日（火）～12 日（日）　11 時～20 時（最終日は 18 時まで）
会場：The Artcomplex Center of Tokyo 2 階 ACT5｜〒160-0015　東京都新宿区大京町 12-9
主催：美学校・ギグメンタ実行委員会
協力：The Artcomplex Center of Tokyo
観覧料：無料
展覧会特設 HP：http://hardcore-nihonga.weebly.com/

■会期中のイベント

（1）オープニングパーティー
日時：2015 年 4 月 7 日（火）18 時～20 時
会場：The Artcomplex Center of Tokyo 2 階 ACT5
参加費：無料、どなたでもご参加いただけます

（2）対談「日本画と洋画のミームの摘発」
出演：梅津庸一（美術家）、小金沢智（本展企画者／日本近現代美術史）
日時：2015 年 4 月 11 日（土）14 時～16 時
会場：The Artcomplex Center of Tokyo 2 階 ACT5
参加費：無料、どなたでもご参加いただけます
概要：近代日本の産物である日本画と洋画のミーム（文化的遺伝子）は、明治時代以降どのような形で現在の美術に息づいているか？　洋画の造詣が深い美術家の梅津庸一氏をゲストに迎え、本展企画者である小金沢智と、日本画と洋画をめぐるトークを開催します。
対談のキーワード：①「MOT アニュアル 2006 No Border 『日本画』から／『日本画』へ」展（東京都現代美術館、2006 年）、②古田亮『狩野芳崖・高橋由一―日本画も洋画も帰するところは同一の処』（ミネルヴァ書房、2006 年）、③「揺らぐ近代　日本画と洋画のはざまに」展（東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、2006 年-2007 年）

出演者プロフィール：梅津庸一　UMETSU Yoichi
1982 年、山形県生まれ。2005 年、東京造形大学絵画領域卒業。2006 年、「第 9 回岡本太郎記念現代芸術大賞展」（川崎市岡本太郎美術館）にて準大賞受賞。個展「智・感・情・A」（ARATANIURANO、2014 年）、二人展「正しい絵画のつくり方」（ARATANIURANO、2013 年）、グループ展「反戦 来るべき戦争に抗うために」（SNOW Contemporary、2014 年）、グループ展「であ、しゅとぅるむ」（名古屋市民ギャラリー矢田、2013 年）など、個展・グループ展への出品多数。2014 年春、相模原市で「不定形の理想共同体」を標榜する私塾「パープルーム予備校」を開校、名古屋や熊本など各地で受講生と様々な出自を持つ作家を多数交えた展覧会も行う。自身の作品と多岐に渡る活動の根底には、日本の近代以降の美術（とりわけ洋画）の制度と様式の、現代における断絶と継承の問題が一貫して横たわっている。

本展覧会のお問い合わせは下記までお願いいたします
小金沢智　hardcore.nihonga@gmail.com